



岩木山と花菜くりん・山と菜の花。

津軽観音巡礼

令和に息づく祈りの道

菊池正浩

それはおよそ20年前のことだった。現在の「もの」の芽倉・代表の佐藤史座くんと、幾度か挫折していた津軽観音巡礼に出かけることになった。津軽三十三観音巡りで3年、その後は、津軽一代様巡り、北斗七星巡りと続き、結局、毎年1回・5年に渡る旅になった。軽い気持ちで始めたその旅は、驚くべきこの連続だった。津軽地方に展開する水田の里・海辺の里・山合の道。そこには次々と知らない世界が繰り広げられている。旅の途中でひとつのことに気づいた。巡礼の道には、江戸時代の庶民のさまざまな苦悩・願いが込められている。それが、糸の魂のようにもなっている。もつれ

ている。しかし、そこから一歩の糸がのびて、時代を超えて引き継がれていた。それを繋ぐのはまさしく女たちだった。弘前の八幡宮で、母乳が噴水のようにあふれ出ている絵馬を見た。それは、飢きんの時代、子供たちを飢えから守りたいという母の切望な願いではなかったか。さらに、黒石の法眼寺では、講の代表として、女性が、西国へ旅立ったという「祈りの形」の記録が残されていた。寺の境内に砂で西国巡礼のミニコースが残されていたのである。太宰治は、小説「津軽」の冒頭、江戸時代にこの地を襲った飢きんについて



第一巻・久遠寺の参道（昭和40年代撮影）。



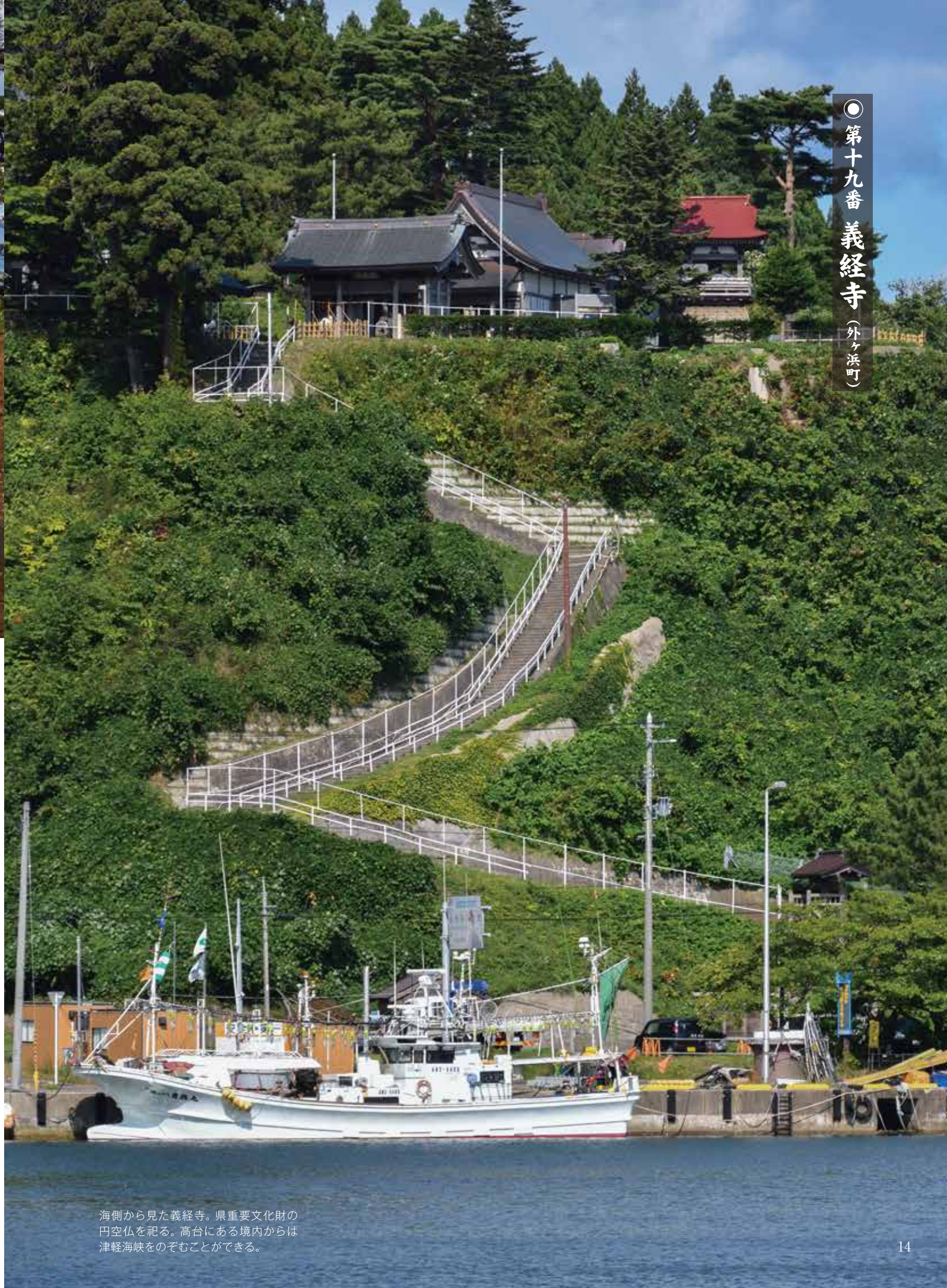
◎第五番 十腰内観音堂
(巖鬼山神社) (弘前市)

縁起によれば、この山麓に悪鬼がおり、山神に祈願して悪鬼を征伐することができたという記述もあるという。この一帯には、古来、鬼伝説が数多く残っている。十腰内というこの地の名も、村の長者の娘を欲した鬼が一晚で刀十振りを鍛える約束をして見事に完成したが、長者が娘をやるのを惜しくなり一振りを隠した。その結果、十腰内(トコシナイ)という地名になったといわれている。



●第二十一番 鬼泊巖屋観音堂（今別町）

陸奥湾をのぞむ。第二十一番は2カ所あり、もう1カ所は6kmほど離れた場所にある幾月海雲洞釈迦堂（今別町）。



●第十九番 義経寺（外ヶ浜町）

海側から見た義経寺。県重要文化財の円空仏を祀る。高台にある境内からは津軽海峡をのぞむことができる。



第十五番・薄市観音堂（中泊町）。



第十八番・海満寺（中泊町）から見渡す風景。

津軽半島の北端・竜飛崎の東側に、三厩（現・外ヶ浜町）はある。その名は三馬屋に発し、義経が馬をつないだ場所といわれる。義経は衣川で戦死していない、秘かに逃げのびたという伝承は、東北各地に残っている。その最もシンボリックな場所が、この義経寺である。義経は、ここから海を越えて北海道へ渡ったという。

義経寺の観音堂は、三厩港を真下に眺む小高い丘の上にあった。これは、三厩港の沖合いの船からも目印としてよく見える。航海の安全や大漁を祈る信仰の対象として、この地に深く根づいていたのではないだろうか。

津軽三十三観音霊場 縁起・所在地

安良・岩谷・福地・福地

第一番 久渡寺

弘前市

ご縁起
みだくや めくみもふかき
かんざん つみもむくも
はらすみやだち

住所：弘前市坂元山平一
電話：0172(88)1606
住所本尊：観世音菩薩



久渡寺の観音堂。

第二番 清水観音 陽光院

弘前市

ご縁起
わがいのを はるばるここに
きよみずの ながれにうかぶ
のりのつきかけ

延暦寺開創八二一〇〇に阿
羅漢山・大鶴町に建立された補
陀尊が弘前 康久二年(一〇二
年、清和・河知上人により本尊の
聖観音が現在の場所に遷され、小
沢山教寺と改称された。康久年
間(五九一・六二)には弘前
藤原代善王・津波姫が寺を寄
進して清観山観音堂とし、二代藤
原・信光がここに新観所として久
渡寺とした。

その後、火災や雷害により建物は
傾壊したが、いずれも湯の湧出
により再建された。



清水観音。



日光院。



南貞院。

(清水観音)
住所：弘前市坂元山平一〇四
電話：0172(88)2111
住所本尊：二手観世音菩薩



清水観音村迄にて。



第三番 求聞寺

弘前市

ご縁起
ちちはの ばだいをねがふ
ひやくたくじ はとけといわれ
かみといわれん

住所：弘前市西沢寺二〇
電話：0172(88)2243
住所本尊：観世音菩薩

旧来の求聞寺は、延暦十年(七
九一)坂上村麻呂の菩提寺として
創建された。寺額は十腰内(堂
前部)にあったが百沢(堂前部)



求聞寺。

第四番 南貞院

弘前市

ご縁起
はるばると もうでくるまの
わがころ なもたかすきの
もりにとどまる

住所：弘前市高杉山二〇〇
電話：0172(88)2243
住所本尊：二手観世音菩薩

旧来の南貞院は、坂上村麻呂
の子花輪丸が大同二年(八〇七)
に岩木山麓の南(長念)の森に
お寺を建立して南観音(院・聖徳
太子)をまつたのが始まりとな
る。また、南貞院が加賀藩とな
ったが、明治以降にほぼなく
消滅した。

第五番 十腰内観音堂

弘前市

ご縁起
まいるより たのみをかけし
とこしなひ ききしにまざる
ふるきみやだち

住所：弘前市十腰内観音堂
電話：0172(88)2243
住所本尊：十腰内観世音菩薩

延暦五年(七八六)、坂上村麻呂
が岩木山麓に南貞院(観世音堂)
の如きところを建て、代々の津軽藩
に信仰され、特に津軽藩の寺子



十腰内観音堂。(右6)

